

シラバス参照

開講年度	2020
科目名	情報経済論1
職名／担当教員	経済学部 教授 望月 宏
期間／曜日／時限	前期 水曜日 3時限
開講区分／校舎	一部生田／生田
配 当	経済学科234, 国経学科34
単 位	2
コースコード	ECP311

講義内容	<到達目標> グローバルに情報化が進展する中において、情報経済論の視点と手法に基づいて日本経済の現状を分析できる。 <卒業認定・学位授与の方針との関連> 「知識・理解」「思考・判断」 <講義概要> 米国で組織構造の革新的な変革の手段であるとされる「リエンジニアリング」の検討をするなかで情報技術の役割を明らかにすることから始まり、情報技術の本質、過去の技術との相違、情報投資の実態、組織と技術との関係のほか、一方で影の側面にも検討を加え、情報化社会の基本的な視点を検証する。そして「情報の産業化」と「産業の情報化」が進む日本経済を分析する。 <講義計画> 第1回 授業の概要、到達目標、評価基準 第2回 リエンジニアリング革命と情報技術、歴史分析 第3回 リエンジニアリング革命と情報技術、構造分析 第4回 アダムスミスの分業に対する逆分業 第5回 組織と情報 第6回 技術の発展段階 第7回 市場と組織、ネットワーク 第8回 ネットワークの外部経済性 第9回 ネットワーク産業 第10回 インターネットの歴史と構造 第11回 情報通信産業の発展 第12回 不完全情報下の意思決定 第13回 完全情報の価値と機会費用 第14回 「情報の産業化」と「産業の情報化」 第15回 前期のまとめとテスト
教科書・参考書	<教科書> 教科書は特に指定しない。 <参考書> 以下の本は、参考書として随時講義のなかで利用する。 マッケナ著、秋葉訳、『不確実性の経済学』、多賀出版 広松、大平著、『情報経済のマクロ分析』、東洋経済新報社 林、松清著、『テレコミュニケーションの経済学』、東洋経済新報社 ハマー、チャンビー著、野口訳、『リエンジニアリング革命』、日本経済新聞社 経済企画庁調整局編、『日本経済の情報化』、大蔵省印刷局
成績評価方法・基準	全回出席と真摯な授業態度を原則とした上で、毎回の授業のまとめ、論考、および課題をネット上へ提出(80%)、最終論文、授業での発表(20%)により判定する。
履修上の留意点	予習として、授業内で提示される資料を読んでおくこと。また、復習としては、授業用の私の研究室の掲示板に「毎回の授業のまとめ、感想、課題への回答、質問」を提出することによって行われる。 「情報経済論1」(前期)は「情報経済論2」(後期)と密接につながっているため、両方の講義を履修することを原則とする。
担当教員へのアクセス	メールによる(mochizukiphd@gmail.com)
その他	初回授業時に履修希望者の手続きを行うので必ず参加すること。
更新日付	2020/02/19 15:48